

# 中堅・中小企業の設備導入事例

## 谷崎製作所



「なんでもやる」。谷崎文雄社長は会社の方針についてこう言い切る。谷崎製作所は事務機器などに使われるシヤフト、ピス、ワッシャーといった部品の多品種少量生産がほとんどで、つめの先ほどの細かい部品でもしっかりと顧

客の要望に応える品質を維持するのが会社のモットーだ。いろいろな顧客の要求に応えることで、中国などアジアの安価な部品加工工場とは異なる、日本でしかできない切削加工の実力を培ってきた。

9月に導入したのはシチズン製のBという直径12ミリの切削できる小型タイプ。まず2台を入れた。今

後はさらに同タイプを12月に2台、来年1月に2台と相次ぎ導入する計画だ。Mという直径16ミリの切削できる少し大きなタイプから機種を置き換えることで、「顧客の要求に合った設備に切り替える」と谷崎和寿副工場長は今

谷崎副工場長は学校を卒業後、機械メーカーに修行に出た。その経験を生かし、「顧客から相談される新しいことには積極的に挑戦する。そして機械メーカーにも、こんなことができないかと相談して、一緒にクリアしていく。

### 小型機は小回り利く 顧客要求にしっかりと対応

回の設備導入の狙いを語る。小型機種は小回りが利くため、作業効率向上し、納期短縮も狙えるのだ。大きな部品を加工するのだけならば、小型機種に切り替えた方が台数も、数多く設置することができるし、生産量も増やすことが

要求に答えられないようでは、機械メーカーもダメだ」と常に半歩先取りすることが競争力の源泉という。

当初、1階建てだった工場と事務所は、増築を重ねて2階建てとなった。そして今では3階建てにまで拡大した。工場と一緒に1階にあった事

務所は、3階に移設し、1階の工場には、旋盤などの機械が所狭しと並んでいる。

大手メーカーの工場の海外移転が進むなかで、中小企業が仕事を確保し続けるのは簡単なことではない。「いままも、これからも顧客の要求にしっかりと応えていく」と方針は明確だ。谷崎社長は、今後こうした変わらぬ顧客志向の姿勢で事業に取り組むことが会社の成長を支えるという考えだ。

▽事業内容 金属切削加工業  
▽所在地 茨城県日立市  
社長 谷崎文雄氏 電話 0294・35・5476  
▽資本金 1000万円  
▽従業員 25人  
▽設立 1962年4月